

# 出前授業実施テーマリスト

大阪ユニセフ協会

2019.04現在

所要時間、内容につきましては、担当ボランティア講師と相談しプログラムを作成いたします。

## A. ユニセフの活動・子どもの権利

No.	対象・時間等	内容
1	幼児 45分程度	エプロンのポケットからいろいろなものを出してお話する「エプロンシアター」。 ユニセフのテントの病院に来る栄養失調のキツネ、下痢のタヌキ、予防接種を受けに来たカモの親子などが登場します。途中皆で「手洗いダンス」をします。その他「ユニセフビンゴ」などでお遊びもします。
2	小学校低学年 45～60分	ユニセフの活動について、イラスト入りのPPTを使って説明します。募金や支援活動については、「100円でできること」の支援物資の実物や写真を見せながら、簡単なクイズなどで分かりやすく解説します。一番身近で簡単にできる予防法「手洗いダンス」のDVD(約1分)を見て、踊りながら正しい手洗いの方法を学びます。
3	小学校高学年以上 45～60分	ユニセフの活動を「予防」と「自立」の2面から説明します。世界の子どもの厳しい状況について、PPTに編集した写真やデータなどを使ってクイズ形式で一緒に考えます。 支援物資の実物を見せながら、募金の使われ方の説明をします。
4	小学校高学年以上 60～90分 (子どもと大人が混在する団体に適しています)	「子どもの権利条約」について理解を深めるワークショップ。最初に子どもの権利条約の4つの柱(生きる・育つ・守られる・参加する権利)について説明します。続いて参加者は数グループに分かれ、配られた直近の新聞記事を読んで、その記事で取り上げられている問題点と関係する条文を選びます。条文は木の葉状のリーフに書かれており、そのリーフを権利ツリーが描かれた用紙に貼りつけます。その記事に書かれた問題点と解決策等をグループで話し合い、各グループから話し合った内容を発表します。
5	中学生以上 45～60分	「子どもの権利条約」の採択に至る過程とその理念や特徴についてPPTを使って説明し、世界の子どもの厳しい状況を示す写真を見ながら、その状況はユニセフが分類している「4つの権利」のどの項目に反しているか、また、その子どもたちが権利を回復できるようにするにはどのような支援が必要かを、一緒に考えます。

## B. 国際理解・教育

No.	対象・時間等	内容
1	小学校高学年以上 60～90分	ワークショップ「フォトランゲージ」…児童・生徒を数グループに分けます。世界の子どもの厳しい状況を写した写真(各班に1枚づつ)を見て何を感じたかを話し合い、意見をまとめることを通じて、世界で苦しんでいる子どもの現状について理解を深めます。その写真の子どもが何を訴えたいのか想像して「吹き出し」のコメントを考えます。
2	小学校高学年 60～120分	ワークショップ「100人の村から」…世界を100人(児童・生徒数で適応可)の村に見立て、それぞれに配られた役割カードに従って移動するゲームで、世界の人口、水と衛生、栄養、および富の分配の不均衡について学びます。PPTの写真やデータを使って解説を交えながら、貧困から派生する各種の問題に苦しむ子どもたちの状況を考えます。
3	小学校低学年 45～90分	ワークショップ「大移動クイズ」5～6人のチームに分かれ、まず自分のチーム名を考えプラカードに書きます。世界に子どもの状況をYES・NO形式で出題。クイズの正解をチーム全員で考え、YES・NOのコーナーへチームごと移動します。各問毎に解説を加え、正解の一番少なかったチームは罰ゲームとして、水がめでの水運びリレーをします。

## C.保健・衛生

No.	対象・時間等	内容
1	小学校低学年以下 45～60分	ミニ・ワークショップ「経口補水塩水作り」。導入でペットボトルに入れた泥水を見せ、こんな水しかない場合この水を飲むか飲まないかを質問します。自分たちの生活からかけ離れたことなので戸惑う児童も多いと思われませんが、開発途上国には汚れた水しか飲めず(PPTで写真を見せる)下痢で死亡する子どもが多いことを説明し、脱水症状を緩和する経口補水塩水(ORS水)と同じような効果がある飲料の調合実演をし、全員で試飲をします。
2	小学校高学年以上 45～60分	ミニ・ワークショップ「水運び」。開発途上国にはきれいな水を飲むことができない人が多くいます。遠くの川から重い水瓶で水を運ぶのは女の子の仕事で、(3分程度の動画を見せる)そのために学校に通えない子どもが大勢いる事をPPTを使って説明します。後半は水がめとポリバッグで水運び競争をして、現地の子どもの苦勞を体感します。ユニセフの支援物資の実物も展示し、解説します。
3	全般 45～60分	開発途上国では5歳未満で死亡する子どもが多いことを色分けした世界地図で示し、その主な原因について解説します。この子どもたちを救うために重要なことは「予防」で、衛生、栄養の他、親の教育、貧困対策など幅広い分野にわたること、そして支援活動の結果状況が改善されていることをPPTを使って説明します。

## D.厳しい状況

No.	対象・時間等	内容
1	小学校高学年以上 45～60分	ミニ・ワークショップ「児童労働」。クイズ形式で世界の児童労働の実態を学び、児童労働はなぜ生じるのか、どうすれば無くすことができるのかなど、その問題点と解決策について話し合います。児童労働に関するパネル展示も可能です。
2	中学生以上 30名程度 60～90分	ディベート「児童労働」。世界の児童労働の状況について、PPTでの画像や説明を受けた後、最近法律で児童労働の制限年齢を引き下げたポリビア問題についてディベートをします。個人的な考えは無視して、児童労働反対派(例えばILOや先進諸国の代表役)とポリビア擁護派(例えばポリビア政府代表役)と審判団の3グループに物理的に分けますが、ディベートの進行については生徒数に応じて対応します。
3	小学校高学年以上	ワークショップ「ストリート・チルドレン」。ブルンジのストリートチルドレンのPPT漫画を見たあと、ストリート・チルドレンの実情について学び、彼らを保護する方法についてグループに分かれて話し合い、重要かつ緊急を要する順にダイヤモンドランキング表に記入します。各グループからの発表の後、保護策の実現可能性について話し合います。
4	小学校高学年以上 60～90分	世界の「貧困」と、貧困から派生する問題について学びます。絶対的貧困率、相対的貧困率、国際貧困ラインなどをわかりやすく説明します。「100人の村」形式で富の分配をミニワークショップを実施し、世界で進行している経済的格差を体感します。貧困は経済的なデータだけの問題ではないこと、貧困のサイクルから脱出するには、時間はかかるが「教育」が重要であることなどを学びます。
5	小学校高学年以上 60～90分	「平和学習」。平和とは何かを全員で考えます。麻薬で恐怖心を取り除いて戦場に送られる子ども兵士の実態や、地雷の説明やレプリカの展示も行います。世界中でいかに戦争・紛争が多いかを紛争地図で説明し、紛争の被害や難民となった子どもたちの写真を見せながら、ユニセフの支援について解説します。
6	小学生以上 60～90分	ワークショップ「緊急時に持ち出すものは？」…グループに分かれて、災害に見舞われたり、紛争に巻き込まれた時に何をもち出すか、品物を書いたカードの中から決められた個数を選びます。数グループが発表した後、さらに持ち出し品数を減らさなければならない状況を想定し、どれを捨てるかを考えます。まとめとして、難民たちの厳しい状況を説明します。